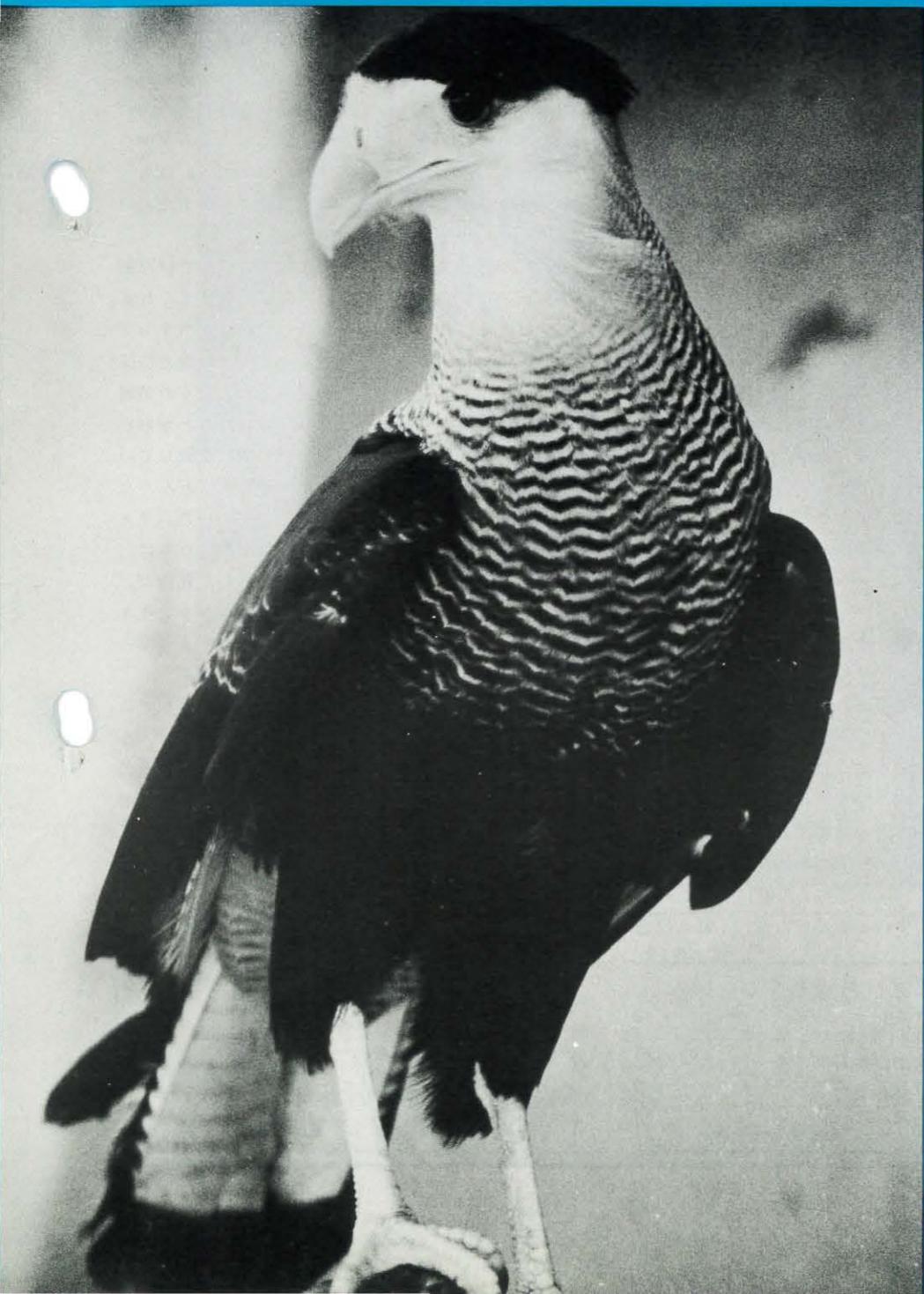


なきごえ



1979

11

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私



石井 みき子

私たちの周囲には骨格（いわゆる骨）を持っている動物が多い。イヌやネコはもちろんのこと、くねくねと動くヘビなどは、ネックレスにでもしたくなるようなきれいな骨である。

また、骨の検診を受けたりすると骨がレントゲン写真に写っていて、改めてこんな型の骨もあるんだなあと思ったりもする。骨は私たちにとってあまりにも身近にあるために、往々にして無視される。それどころか、あまり良いイメージは持たれていないらしく、骸骨を思い出して気が悪いと頭から決めている人が多いようである。実は私も骨との付き合いが始まるまではそう思っていた。

私が動物の骨に興味を持ったのは、就職したところに、縄文や弥生・古墳時代などの遺跡から出土した骨が集められていたからである。私は子供の頃から生き物が大好きで、動物愛好家の類にもれず飼育することが好きであった。そして、元来の動物好きが高じたのか、遠い昔の骨をみていると、その頃に生きていた動物のことを知りたいと思うようになった。

骨はその動物が生きていた時の様子を実によく教えてくれる。もちろん、イヌはイヌの型をした骨を持ち、ネコはネコの型をした骨を持っている。特に哺乳類の分類は頭骨で行なわれているので、頭の骨を見ると大体的見当はつく。その他の骨も種々の特徴を現わしていることが多いが、細かい分類をするのは困難である。また、動物の体の骨の骨化の状態や歯のはえ方や減っている状態などからおよその年齢を推定できる。意外に野生の動物は外傷が多く、ワナにかかったり、けんかでもした時に受けたのか手や足を複雑骨折しているものがあり、それらは完

全に治癒している。また、病気にかかっていたと思われるようなものもあり、生命力の強さにはおどろかされる。

骨は体の中では歯に次いで2番目に硬い組織なので、化石などとなって残りやすい。縄文や弥生時代の遺跡から出土する骨は、その当時の人々が主に食料として捕獲していたと考えられる。哺乳類ではイノシシやシカが大半を占めており、鳥類ではヤマドリなどが比較的多い。海辺に近い遺跡などは魚の骨が多く出土したり、時にはクジラなど大型のものまでが出土する。イノシシなどは今日でもポタン鍋と言って冬の味覚の一つであり、昔からなじみの深い動物である。また、イヌも人間とは古くから友達であり、主には弥生時代の遺跡から出土する。これらのイヌは今のよう大型犬は少なく、キツネぐらいと思われる小型・中型犬が多い。

時代が古くなるにつれて日本列島に住んでいた動物も大きく変化していることを化石が教えてくれる。寒い地方に住んでいたと考えられているナウマンゾウやオオツノシカも住んでいたし、暖かい地方に住んでいたワニのなかまの骨も発見され、日本の気候も暖かくなったり寒くなったりしていたことがわかる。また、日本列島はアジア大陸の端に位置しているので、何らかは大陸と続いたりしたが、だんだん日本海が沈んでゆき、日本は孤立していった。そんなわけで、この日本にとじ込められた動物たちは、独自の進化をとげ、もとは同じ種であった動物が、日本独特のものに変わってきている。現在まで生きている種も、化石のものと比較すると少しずつ違っているのである。

骨は動物の死骸ではなく、それはまるで生きているかのように多くの事を語ってくれる。しかし、なぜか日本には骨の標本が数少ない。私たちは、この自然が作り出した芸術作品をもう一度見なおす必要があると思う。

「虎は死んで皮を残す」という諺があるが、皮ばかりではなく、是非骨も残してほしいと思う。

(大阪市立大学医学部解剖学教室技術職員・日本哺乳動物学会々員)

なぎごえ11月号もくじ

動物と私	2
“ハリネズミ、お目見え”	3
動物園グラフ・動物園日記	4・5
北米の動物園をかけめぐって	6・7・8・9
獣医室から	10
動物園ニュース	11

表紙の写真説明

“カラカラ”

中南米に生息するハヤブサの仲間、とぶよりも走るのが得意です。とても好奇心の強い鳥で、とてもさわがしく、いつもにぎやかななき声を出しています。(撮影：農本 武志)



“ハリネズミ、お目見え”

10月7日、1頭のハリネズミの寄贈がありました。ハリネズミはその名のとおり背中一面、針状の毛でおおわれており、ネズミの仲間ではなくモグラの仲間です。当園では11年前に飼育したことがあり、繁殖にも成功しています。

(撮影：大野尊信)

動物園グラフ

“新装なった調理場と飼料倉庫”

今年3月に完成した調理場・飼料倉庫は内装の関係もあってやっと8月から本格的に使用が開始されました。今回はこの新しい調理場・飼料倉庫を御紹介しましょう。(撮影:大野尊信)



調理室には中央に大きなマナ板があり、左側で野菜、果物を、右側で魚、肉類を調理します。



草食動物用の野菜、ペレットパンなどをスコップで混ぜ合わせる所です。



1階は調理室、給配室、検収室があり、2階は飼料倉庫になっています。



2階の倉庫には大型のハイザーが3基設置してあり、階下の給配室で必要量を取り出すようになっています。



ニンジン、イモ、キャベツなどはこのカッターで輪切りします。



サツマイモと卵を蒸すための大きな釜です。



2階の倉庫にはペレット類、穀類などが収蔵されており、ホイストを使って搬入します。

9・10月の動物園日記

- 9 / 26. 昨年産のカリフォルニアアシカのメスを餌付けのため小さなプールに隔離しました。
- 27. オオフクロウの食欲がないので、栄養注射を続けています。
ベニジュケイのヒナ2羽を今日から一般公開しました。
- 28. 15日に生まれた3頭のヤギの赤ちゃんのうち1頭がミルクがあたり衰弱してきたので、人工哺育に切り替えました。
- 10 / 3. 日本平動物園よりメスのハクビシン1頭が

入園しました。

本年生まれのカナダガン1羽を今日から放養舎へ展示しました。

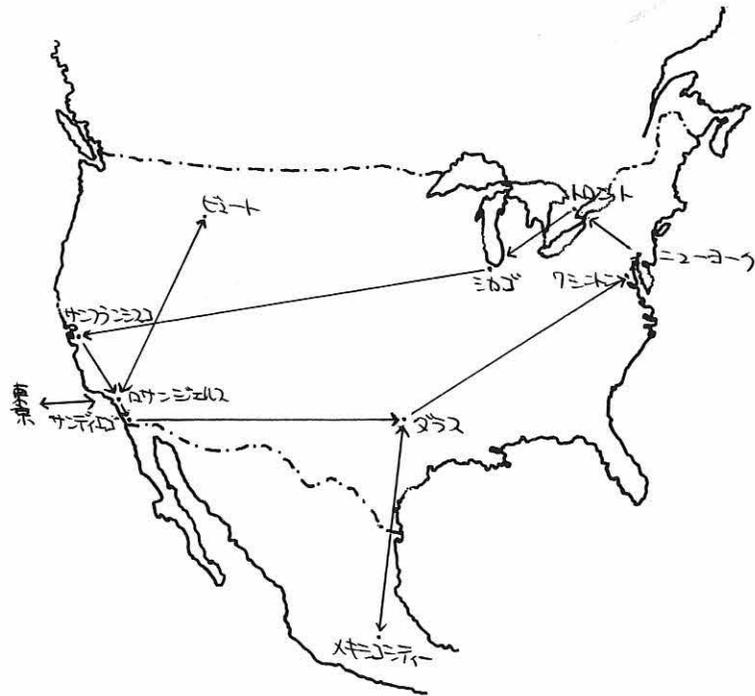
- 4. ニホンジカ5頭の角切りを行ないました。
- 5. コウカンチョウ、コモンチョウ、コキンチョウが入園しました。
- 6. ゾウのユリコが右後肢内側に擦過傷を負ったので消毒をしました。
- 7. アルジェリア産のハリネズミ1頭の寄贈がありました。
- 8. 以前から調子の悪かったスプリングボックのオスが急に倒れたので緊急入院させ、点

滴を始めました。

- 9. オシドリ2番とキンランチョウが入園しました。
- カバのデブコの出産が近づいてきたので、1頭だけ別に分けて収容しました。
- 10. 新しく入園したメスのホオジロテナガザルを以前からいたオスとお見合をさせています。
- 11. 今年4月に保護したツキノワグマのオスが糖尿病で急死しました。
8日から点滴を続けていたスプリングボックが治療のいかなく死亡しました。

- 12. オランウータンのメスが下痢をしたので投薬しました。
- 13. シチメンチョウが衰弱しているのを、栄養注射をしました。
- 14. カニクイザルが赤ちゃんを産みました。
- 15. 1才3ヶ月令のメスのグラントシマウマが入園しました。
昨年産のメスのカリフォルニアアシカは、冷凍アジを食べるようになり、餌付けに成功しました。
- 17. 餌付けのために昨年産のオスのカリフォルニアアシカを隔離収容しました。

北米の動物園をかけめぐって I



① サンディエゴ、ダラス

§ はじめに

今年の夏はムシ暑い日本を脱出して、3週間、北米の動物園を廻って来ました。と、書くといかにも優雅な旅のような感じがするのですが、その実、初めの15日間で11の動物園と2つの水族館を廻るといってハードな旅でした。13の園館を文字通りハリケーンのようにかけめぐったわけです。同行は横浜市野毛山動物園の堀先生、川崎市夢見ヶ崎動物公園の岩本先生、朝日新聞の堀川さん、それに東京農工大学の斉藤さん、柴田さんの計6人の大所帯でした。

この13園館の印象記を今月から数回に渡ってお話ししようと思います。

§ サンディエゴ動物園

8月6日の夜9時、日本を出、途中ホノルルで給油し、飛行機はロサンゼルスに着きました。日本では8月7日の午後1時半ですが、こちらではまた8月6日の午後9時半。時差ボケも起るはずですが。

8月7日は5時半起床。サンディエゴへ飛びました。

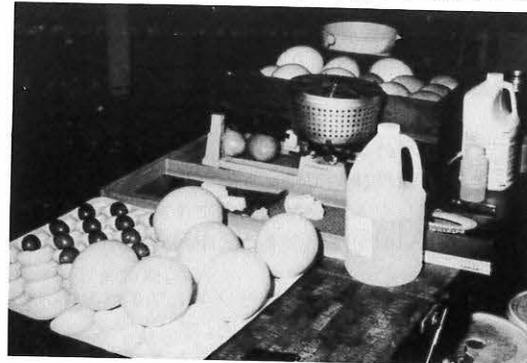
3年振りのなつかしのサンディエゴ動物園はこの日も快晴でした。

堀先生が知り合いのリサー鳥類課長に会い、まず孵卵室と育雛室を見せてもらいました。係のカトラーさんは大変熱心に細かく、各機械や表の説明をしてくれます。台の上に少し変わった感じのするレア



サンディエゴの名物、コアラ

の卵があったので、念の為「これはレアの卵ですか



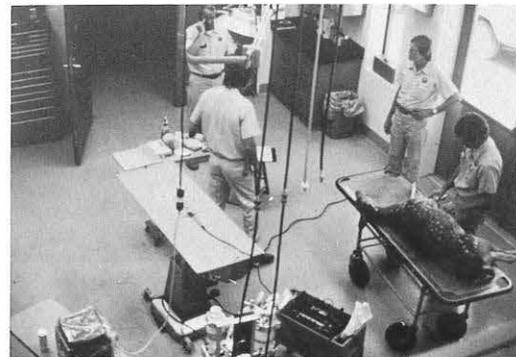
手前がダーウィンレアの卵

？」と、聞くと、「いやー、これはダーウィンレアのですよ」と、言われました。レアは日本でもたくさん飼われていますし、3園では繁殖にも成功しています。しかし、ダーウィンレアは1羽もいません。よく聞いてみると、メスが全部で20羽も居て卵は年間に350個も産むというので、これはタマげてしまいました。

孵卵室を出、それから夕方の6時まで文字通りハリケーンのごとく園内をかけめぐりました。相変わらず、サンディエゴ動物園の動物コレクションのすごさにはまいてしまいます。2台のカメラと1冊のメモ帳で懸命に記録して行きましたが、所詮半日では全体の殆も見られません。

年に数日しか雨が降らないというサンディエゴはこの日も快晴でとても暑く、飲んだコーラを夕方数えてみると15本にもなりちょっとビックリしました。そして写真の方も1日で約400枚も撮っていました。

翌日もサンディエゴ動物園へ。前日見られなかった動物病院を見せてもらうためです。久しぶりにお会いた、病院のロビンソン先生は大変細かく病院の説明をしてくれました。



実習室から見た手術室

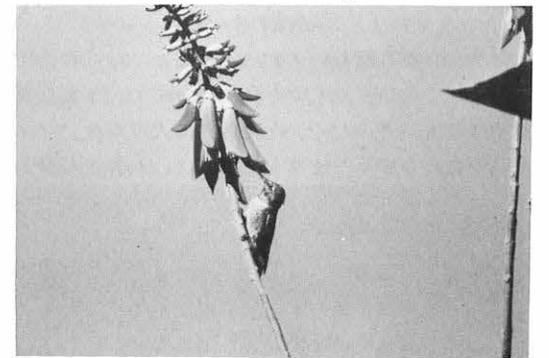
2年前に完成したこの病院の設備はおそらく世界一だと思います。2階建てで、広さは計約1000㎡。1階には入院室、手術室、解剖室、薬庫などがあり、2階には各種の検査室をはじめ様々な分野の資料室があります。また1階の隅の方に小さな倉庫があるのですが、この中には人の背丈程の大きなボンベが何本も収められています。ボンベの中味は酸素と麻酔の為の笑気ガスとハロセンの3種です。この倉庫から1階の各部屋にガスを送っています。ですから、入院室でもし動物が倒れたとしてもいちいち手術室から酸素ボンベを運ぶ必要は無く、この部屋の酸素のcockをひねるとすぐ酸素が吹き出すという具合です。建設には大変な費用がかかったようですが、

それだけ立派で、機能的な病院になっています。また、ここの動物園の獣医さんのレベルはとて高いのですが、手術風景などを学生に見せるため、手術室は天井を高くし、2階の実習室から学生達が手術風景を見学できるようになっています。

§ ワイルドアニマルパーク

午後3時、ロビンソン先生と別れ、郊外のワイルドアニマルパークを目指しました。ここはサファリ形式で殆どの動物が分布地域別に放飼されているので、園内はモンドサ鉄道というモノレールに乗って廻ります。天王寺の約72倍という広い園内で動物達が悠々と暮している風景にはとてもうらやましい気がしました。

モノレールを降りて子供動物園への道を歩いていると、目の前を少し大きめの虫のようなものがブーンという音をたてて通り過ぎました。心臓がビクリと一瞬止った感じです。ブーンの正体は探し続けていたハチドリだったのです。アメリカに着いた時から、いないかなあとオリの中の動物達を半分的眼で



やっと見つけたハチドリ

見ながら、残りの半分はオリの外の木を見、飛んで来ないかなと探し続けていたハチドリです。じっと見ていると3羽いました。互いにけん制しながら花の蜜を吸っています。吸いやすい木があるのでしょうか、他に花のある木はあるのですが特定の木ばかり3羽で奪い合っています。ふるえる手でシャッターを押し続けました。3羽が飛び去ったあと落ち着いて数えてみるとたったの3羽のハチドリに70枚も費していました。

サンディエゴは夜が遅く、9時近くにならないと暗くなりません。動物園も夜の10時頃まで夜間開園しています。ゾウに乗ったり、アメリカワシミミズクやワタリガラス、クロハゲワシからヒメコンドルまで登場するハードショーを見ていたら9時になっ

てしまいました。素晴らしいゾウのショーなど見落したものがたくさんあったのですが、後髪をひかれる思いで車に乗り込みました。

§ シーワールド

翌日はシーワールドを訪ねました。ここは水族館ではありますが、シャチやイルカなどの海洋性哺乳類のショーや、ガンカモ類のコレクションで世界的に有名です。まずはお目当のラッコ舎へ。いるいる、この前来た時は1頭しか居なくて、それも向うむきになって寝ていたため写真どころか顔も見られな



人気者のラッコ達

ったラッコが8頭もいます。みんなとても可愛い仕草でエサのアワビやイカを食べています。こちらでもやはり人気者らしく、たくさんの人だかり、ラッコ達がなにか変わった仕草をする度に、お客さんがドッとわきます。ここでは5分おき位の割で「このラッコは以前はたくさんいましたが、毛皮をとるため乱獲されて、激減し……」というアナウンスが流れていたのですが、他の室内展示場でも必ず説明のアナウンスが流れています。また室外の展示場では必ず職員が立っていてその動物や魚の説明をしていました。日本と違って私立といっても遊技具など置いていませんから、収入はおそらく入場料と売店の売り上げ位しか無いと思います。そんな状態でも、たくさんの貴重な動物を飼い、教育にも熱心に力を入



呼び物のひとつ、豪快なシャチのジャンプ

れています。とても立派なことだと思いました。また、園内でとても車椅子が目立ちました。駐車場には身体障害者専用の区画が設けてありますし、園内の各パビリオンの前には必ず空いた車椅子が置かれています。もちろん園内各所に身体障害者専用のトイレもあります。これは国柄のせいかもしれませんが、見ならわなければならない所だと思いました。

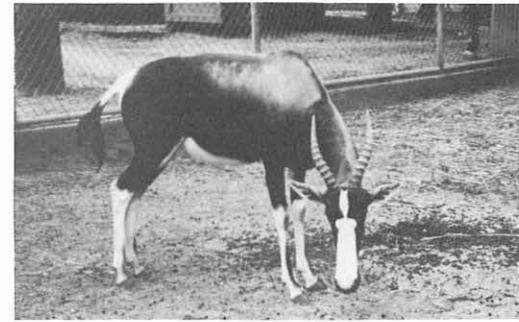
§ ダラス

8月10日はダラスに向いました。飛行機の中で隣の席の人とちょっとしたきっかけから話し始めました。聞いてみるとシンシナティに住んでいるということでしたので、いつものクセで動物園のことを聞きました。シンシナティは白いトラで有名な動物園です。白いトラ達は元気ですかと聞くと、12頭にも増えていて、今度中国の動物園との間で、白トラとジャイアントパンダとの動物交換の話を進めていると新聞に出ていたとのこと。どうなることか楽しみです。



ボンゴのお母さんと赤ん坊

動物園には3時到着。獣医さんは出張中だとかで、ジェネラルキュレーターのブーロックさんが案内してくれました。ジェネラルキュレーターという飼育部長位にあたる園の代表者の一人です。私の勉強不足で、ダラスはコンゴクジャクとオオナガハシハリモグラ位しかいないと思っていたのですが、私達が訪ずれた前日、つまり8月9日に1頭、8日にも1頭のボンゴが生まれていました。ボンゴは世界三大珍獣の一つに数えられる程の珍しい動物で、これで10頭近くになったとブーロックさんはとても喜んでいました。まず有蹄獣ばかり集まっている区域に連れていってもらったのですが、そこでまず目に飛び込んできたのが前述のボンゴ。そして、隣はボンテボック舎。そして5頭のオカピ、9頭のサイガ、6頭のコシキダイカー、10頭のクリップスプリンガー、それにディクディク、ドルカスガゼルなどなど、稀



珍獣ボンテボック

少カモシカ類のオンパレード。ただただ興奮しました。

次に1966年に出来た爬虫類館に案内されました。爬虫類だけではなく鳥や哺乳類もたくさん飼われています。テキサス州のダラスは砂漠が近いせいかガラガラヘビを始め多くの毒ヘビがいるそうです。そこで、この動物園では園で展示している毒ヘビのためはもちろんですが、野外で咬まれた人のために、この地域の毒ヘビの血清はすべて集めて保管し、いつでも使えるようになっていたとのことでした。

観覧通路からヘビ類を見たあと中の管理スペースに入れてもらいました。ダラス動物園には300種を超える爬虫類がいるということだったので、展示



爬虫類館の管理スペース

室にはそれ程多くの爬虫類が飼われている感じがしませんでした。しかし、管理スペースに入ってビックリ。この中にストックのヘビ達がいっぱいいたのです。4段から5段の棚がところ狭しと並べられ、そこにヘビやトカゲ、それにエサの昆虫やマウスなどを入れた水槽がギッシリと並んでいました。

ここでの目玉はなんといってもオオナガハシハリモグラ。卵を産む哺乳類にはカモノハシと4種類のハリモグラがあるのですが、このオオナガハシハリモグラはハリモグラの中でも珍しいもののひとつです。世界中でも4園、北米ではここだけです。予想以上に大きく、20kg近くもありそうで、写真を撮るため



生きた宝物、オオナガハシハリモグラ

抱き上げてくれた係の人はかなり苦しそうでした。名前の通りの長い吻部と後肢の長い爪、それに意外とやわらかそうな焦茶の柔毛の下の白い短い針が印象的でした。

コンゴクジャクを見たり、キリン舎やゾウ舎を見て気が付いたら5時半。記念のステッカーやエムブレムを売っている売店はもう閉っていました。訪問した総ての園館のエムブレムを集めるのが今度の旅行の目的のひとつだったのですが、これではもう手に入れようがありません。仕方が無いのでガイドブックをいただき、あきらめることにしました。

ブーロックさんは時間の許す限り隅から隅まで園内を案内してくれました。そして、私達がホテルを決めていないことを知るとわざわざ近くのホテルまで案内して下さいました。



小型の美しいレイヨウ、ディクディク

あまりたいしたものもないだろうとダラス動物園は半日しか時間を割いていませんでした。しかし、意外といつては失礼ですが、そのビッグコレクションには驚くと共に時間の無さに大変悔しい思いをしました。もし機会があれば、是非もう一度時間をかけて、じっくり見たい動物園です。

(長瀬 健二郎：飼育課、獣医師)

獣医室から ②③

動物の治療のむずかしさ

—— 動物園獣医のつぶやき ——

野生動物は外敵から身を守るという防衛本能が発達しているため、自分の弱みを見せないように常に努力しています。このことは動物園で収容している動物についても同じことがいえます。例えば肉食獣から襲われる立場にある草食獣の場合、体の調子が悪くても力のある限り、体の変調を外から見ても分からないように行動します。ペットの犬や猫でしたら、



熱があったり体のどこかに痛みでもあれば、飼主に体をすり寄せて甘えたり何らかの不調を訴えるでしょうが、野生動物の場合は弱みを見せれば、即それが敵の格好の目標となるだけに、多少の発熱や痛み、体の変調などは表に現しません。体力のある限り頑張り続けるため、動物園では動物が倒れた時はすでに手遅れというケースがよくあります。従っていかに病気の早期発見をするかということは、担当の係員にも我々獣医にも課せられた大きな問題です。早期発見のための基本としては日常行動の観察、体型や皮膚、毛並の状態、食欲の有無、糞便や尿の状態などを一つ一つチェックして診断することです。更に糞便や尿を科学的に検査して、寄生虫や内臓の一部の疾患も診断できる場合があります。ただペットとちがいで、普通の状態では体に触れることは困難なため、検温や血液検査、レントゲン撮影、胸腹部の触診、聴診などの診察ができないため、外見上からだけでは診断のつかない場合が多いのも事実です。こういう場合は早期発見が遅れ、時には手遅れというケースにもなります。いろいろな検査をすれば100%診断できるわけでもないのですが、その検査データから、例え早期発見ができずに病状の進んだ場合でも適切な治療ができます。従って検査データを集めるといことは、早期発見及び適切な治療に不可欠なものです。残念ながら野生動物に限って言えば、その資料が非常に乏しいのが実状です。なぜなら、血液検査を必要とする場合でも、採血するためには対象動物を捕獲し保定しなければなりません。そのためにショック死することもあるでしょう

し、捕えられる際に骨折や外傷を生じるかもしれません。又、捕獲の際に麻酔する必要があるれば、その麻酔によって病気をさらに悪化させるかもしれません。そんな苦勞と危険を見こしてまで検査するのは数少く、ましてや健康な動物からとなると何かの機会でもなければできないことです。更に哺乳類だけでも現存するものは約5000種類もあり、その各々の検査資料を集めることは地道な努力と長い年月が必要とされるでしょう。その点、実験用動物や家畜はいろいろな資料が豊富にそろっており、野生動物の検査資料の乏しい現在、これらの動物の資料を参考にするしかありません。

最近2頭の動物が死亡しました。1頭はカモシカで、原因不明でどんどんやせてきたため、いろいろな検査を行いました。やっと採血して行った血液検査の結果から脂質の値が非常に低いことが分り——健康な1頭も併せて採血した結果と比べ——といっても結果の判明した時点では、もう起立できない状態で栄養剤の点滴輸液を開始していましたが、すぐにその脂質不足を補う療法を始めました。普通、野生動物が点滴できる状態というのは手遅れに等しいといっても過言ではなく、この場合も危篤な状態にありました。しかし検査データから得た知識をもとに行った療法で、結局回復しなかったまでも治療開始後64時間生きながらえました。もしもう少し早く検査結果が分っていたら……生命を助ける場合に「もし……なら」ということは全て後のまつりで、あつてはならないことですが、悔やまれた一例です。

もう1頭は仔グマでしたが、急に軽い痙攣を起こして倒れたため対症療法を行っていたところ、1時間で死亡しました。解剖したところ膵臓と腎臓に病変が認められ、もしやと思ひ尿検査をすると、かなりの糖が認められました。血液も検査してみると、かなり血糖値は低く、又この血糖のバランスをとるホルモンのインシュリンも低い値でした。(グマの正常値が不明なため、他の動物との比較ですが)腎性糖尿の疑いもたれます。この場合も、もし以前に尿の検査を行っていたら……もし血液検査を行っていたら……

相ついで死亡した2例から科学的な検査の必要性を痛感しました。しかし野生動物は実験動物や家畜と異なり、採血一つをとっても困難であり、例えばグマから採血する場合、麻酔し、静脈をさがすために皮膚を切開しなければならいでしょう。生命を預る動物園獣医として動物の治療の限界を感じ、今後いかに対策をたてるべきなのか、悩みに悩む比喩です。

1979年 晩秋

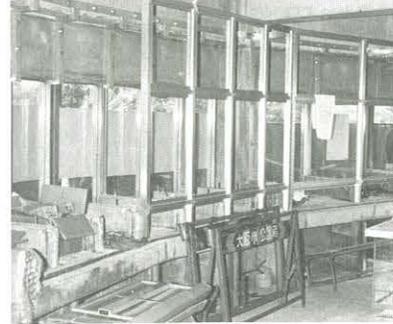
(飼育課：宮下 実)

動物園ニュース

§ 爬虫類舎工事

昭和45年1月1日から一般公開された爬虫類舎はこわいものみたさも手伝ってか、いつも大変な人気です。しかし、小へび類を収容しているケージが、高温多湿の為、老朽化が目立ってきました。そこで

9月18日から改修工事が始まり、今まで、木造だったケージをアルミサッシに取り換えます。10月中旬には完成予定ですが、それまでの間、小へび類は、お目見えできませんのであしからず御了承下さい。



§ アシカの仔の餌付け開始

アシカは昨年2頭、今年も2頭の仔が生まれ、計9頭の大所帯になっています。しかし、野生では生後6ヶ月位で親と同じ魚を食べるのですが、昨年生まれの2頭は生後1年4ヶ月たってもまだ母親の乳を飲んでいました。母仔共このままで好いはずはあ

動物園からメスをプレゼントしていただいたわけですが、早速、見合いです。相性がよく、すぐ同居させました。

§ ニホンシカの角切り実施

本格的な交尾シーズンが始まり、オス間の闘争が激しくなりはじめた南園の日本ジカですが、メスや



仔がとばかりでケガしないよう、10月4日角切りを実施しました。5頭のオスの角を切ったのですが

くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

獣医室から ②③

動物の治療のむずかしさ

——動物園獣医のつぶやき——

野生動物は外敵から身を守るという防衛本能が発達しているため、自分の弱みを見せないように常に努力しています。このことは動物園で収容している動物についても同じことがいえます。例えば肉食獣から襲われる立場にある草食獣の場合、体の調子が悪くても力のある限り、体の変調を外から見ても分からないように行動します。ペットの犬や猫でしたら、



熱があったり体のどこかに痛みでもあれば、飼主に体をすり寄せて甘えたり何らかの不調を訴えるでしょうが、野生動物の場合は弱みを見せれば、即それ

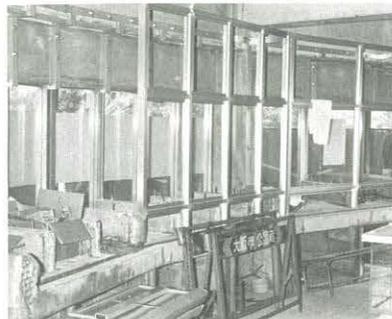
し、捕えられる際に骨折や外傷を生じるかもしれません。又、捕獲の際に麻酔する必要があるれば、その麻酔によって病気をさらに悪化させるかもしれません。そんな苦勞と危険を見こしてまで検査するのは数少く、ましてや健康な動物からとなると何かの機会でもなければできないことです。更に哺乳類だけでも現存するものは約5000種類もあり、その各々の検査資料を集めることは地道な努力と長い年月が必要とされるでしょう。その点、実験用動物や家畜はいろいろな資料が豊富にそろっており、野生動物の検査資料の乏しい現在、これらの動物の資料を参考にするしかありません。

最近2頭の動物が死亡しました。1頭はカモシカで、原因不明でどンドンやせてきたため、いろいろな検査を行いました。やっと採血して行った血液検査の結果から脂質の値が非常に低いことが分り——健康な1頭も併せて採血した結果と比べ——といっても結果の判明した時点では、もう起立できない状態で栄養剤の点滴輸液を開始していましたが、すぐにその脂質不足を補う療法を始めました。普通、野生動物が点滴できる状態というのは手遅れに等しいといっても過言ではなく、この場合も危篤な状態にありました。しかし検査データから得た知識をもとに行った療法で、結局回復しなかったまでも治療

動物園ニュース

§ 爬虫類舎工事

昭和45年1月1日から一般公開された爬虫類舎はこわいものみたさも手伝ってか、いつも大変な人気です。しかし、小ヘビ類を収容しているケージが、高温多湿の為、老朽化が目立ってきました。そこで9月18日から改修工事が始まり、今まで、木造だったケージをアルミサッシに取り換えます。10月中旬には完成予定ですが、それまでの間、小ヘビ類は、お目見えできませんのであしからず御了承下さい。



§ アシカの仔の餌付け開始

アシカは昨年2頭、今年も2頭の仔が生まれ、計9頭の大所帯になっています。しかし、野生では生後6ヶ月位で親と同じ魚を食べるのですが、昨年生まれの2頭は生後1年4ヶ月たってもまだ母親の乳を飲んでいました。母仔共このままで好いはずはありません。そこで、ゾウ舎横に特設の小プールを作り、ここに1頭ずつ入れ、餌付けを始めました。まず、9月26日、6月10日生まれのメスを隔離し、生きたアジや金魚を食べる練習から開始しました。隔離後4日目の9月29日やっと生きたアジと金魚を食べることを覚えました。それから徐々にエサを切り換え、隔離後、15日目やっと親と同じ冷凍アジを食べるようになりました。そして10月17日、2頭目のオスも収容しました。こちらももうすぐ自分でエサを食べるようになると思います。



り、ここに1頭ずつ入れ、餌付けを始めました。まず、9月26日、6月10日生まれのメスを隔離し、生きたアジや金魚を食べる練習から開始しました。隔離後4日目の9月29日やっと生きたアジと金魚を食べることを覚えました。それから徐々にエサを切り換え、隔離後、15日目やっと親と同じ冷凍アジを食べるようになりました。そして10月17日、2頭目のオスも収容しました。こちらももうすぐ自分でエサを食べるようになると思います。

§ ハクビシンのプレゼント

10月3日、静岡の日本平動物園からハクビシンのメスが送られてきました。

以前から当園にはオスのハクビシン一頭が飼われていたもので、メスを探していたのですが、この度、ハクビシンの日本の分布地である静岡の日本平

動物園からメスをプレゼントしていただいたわけですが、早速、見合いです。相性がよく、すぐ同居させました。



§ ニホンシカの角切り実施

本格的な交尾シーズンが始まり、オス間の闘争が激しくなりはじめた南園の日本ジカですが、メスや



仔がとばかりでケガしないよう、10月4日角切りを実施しました。5頭のオスの角を切ったのですが、角を切られ

たオス達はとても戸惑っている様子でした。

§ ボランティアーズによるガイドツアー実施

秋の動物園まつりが10月14日から11月4日まで行われましたが、この期間中の日曜、祭日の午前と午後一回ずつガイドツアーが行われました。これは入園者を対象として、ボランティアーズが園内を案内し、各動物舎でその動物の説明をするというものです。親子コース、小中学生コースなど3コースが行われ、各コースともとても好評でした。

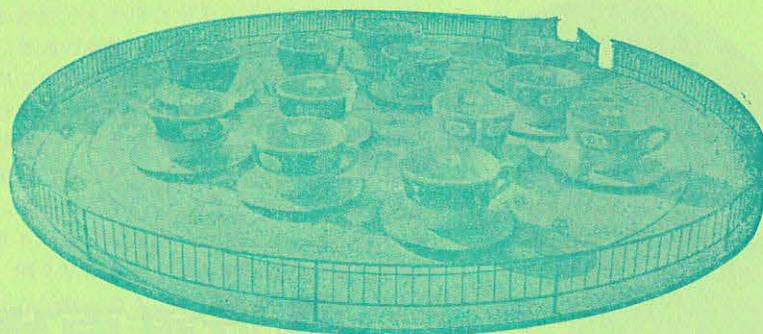


★休園日のお知らせ★

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。年内の休園日は下記の通りです。

11月19日、12月17日、12月29～31日(年末休園)
開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江1丁目23番21号
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

なきごえ 昭和54年11月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

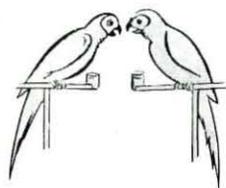
第15巻第11号(通巻171号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 大阪 37823

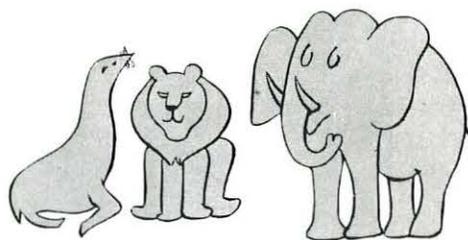
1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨグール

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・榊原 安昭・樽本 勲・主井 良彦・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登